令和元年度第1回(第47回)地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

１　日時　令和元年７月１２日（金）１３時３０分～１６時

２　場所　県庁第２０会議室

３　内容

（1）委員長選出

・委員互選による選出

・採決の結果、河田委員が委員長に選出された。

（2）平成３０年度及び第３期中期目標計画期間の業務実績の聞き取り・質疑応答

（産業技術センターが実績を説明した後質疑応答。以下、委員との主なやりとり）

・工業製品が商品化されるまでに時間がかかるが、できるだけ早い時期に市場に製品化できるように継続して尽力いただきたい。

・評価委員会が昨年の見込み評価で、ある項目について自己評価は「A」だが、評価委員会として「B」とした箇所も若干あったがいくつか今回「自己評価A」にしたかというところは委員会としてはどう理解したらよいか。

→（産技C）３０年度、第３期をまとめるに当たって新理事長のもと重点分野を打ち立て、企業訪問に反映するとか組織的に動くなどと取り組んだ結果、全体的には共同研究や技術移転など多くの成果が生まれた。我々としては、１年前の見込みはBという評価をいただいたが、（1年経過して最終的な）自己評価としてはAで出している。

・いろいろな認証を出すときに試験度品質、ＩＳＯがあるが、ＩＳＯに合っているかどうかというのはサービスを受ける企業の側として非常に関心が高いところ。ＩＳＯへの対応についてどのように考えているか。

→（産技C）試験場認定制度とか、以前からいろいろあるが、機器それぞれに合った保守点検において最低限水準維持はしている。

・オーダーメイド人材研修というのは、一つの企業、企業に入り込んで教育していくというものだと思うが、実際は企業の要望は結構あるのか。企業というのはそんなにたくさん、あれもこれもできる人材が豊富ではない。外部と連携しながらワンストップで企業の要望に応えていただけるような、そういう協力体制づくりに取り組んでほしい。

→（産技C）要望はある。企業（の技術者）自ら課題を持ち込んでもらって、センターの中で課題解決をしてもらう。それを研究員が支援する形式。共同開発に発展する可能性も高いが、基本的には企業技術者が自分で課題解決をされるのをセンター職員が手伝って解決に導く。

・もともとセンターは企業のための研究をしている機関なので、特許は、企業に技術移転できてこそ活きる。特許を取得したら速やかに技術移転に向かい、実施許諾を結ぶのが理想である。資料に記載があるとおり、徐々に実施件数も増えているが、金額的にはまだまだ努力はしないといけない。採択された大型プロジェクトが実現すれば（一緒に研究しているので）、共同研究している企業からの実施料等も増えていくのではないか。第４期は上がっていくことを期待している。

⇒質疑応答終了後、産業技術センター退出

⇒委員長から、評価案とりまとめに向けて今後のスケジュールを説明（各委員の評価提出期限等）

⇒事務局から、次回開催期日（8/21）を案内　　（以上）